

## 2 備蓄はどうしていますか？

ソーラー発電機やポータブル電源、カセットコンロなどを確保し、停電に備えています。また、ポリバケツに雨水を溜めたり、使い捨てトイレを準備したりするなど、断水にも備えています。

食事は、普段食べているものを無理なくローリングストック(\*)しており、補完的に防災備蓄食糧も確保しています。停電した場合、1日目は生鮮食品などの冷蔵食品、2日目は冷凍食品、3日目以降は防災備蓄食糧を食べようと考えています。

※普段の食品を少し多めに買い置きし、古いものから消費し、消費した分を買い足すことで常に食品が備蓄されている状態を保つための方法



「地震、ハウス！」の号令で、ペット自らがケージに入ります。



## 3 ペットの防災対策はありますか？

ペットと一緒に避難所へ避難をする場合は、ケージに入れる必要があります。大切なペットと同行避難(\*)するため、日頃からケージに入る練習をしています。※飼い主が、飼育しているペットと一緒に避難所まで安全に避難すること。避難所は、動物の苦手な人やアレルギーの人を含む、多くの避難者が共同生活を送る場となることから、人とペットの居住空間は別々としています

point!

常に「今、揺れたらどうする?」と考えてみましょう

わが家では、揺れた瞬間に、とにかく「身(特に頭)を守る」ことを考えて、地震対策をしています。特に注意しているのが、無防備になる就寝中と大きな電化製品が多いキッチンにいるときの安全確保です。

また、大地震のときには停電、断水が起きます。それが真夜中であれば、真っ暗闇の部屋から脱出しなければならぬので、ライト、安全スリッパが枕元にあると助かりますね。

阪神大震災の犠牲者の約7割は窒息・圧死でした。そして東日本大震災の犠牲者は9割以上が溺死といわれています。どちらも最初の揺れで「身を守る」ことができなければ、もう少し犠牲者は減っていたかもしれません。

地震はいつ、どこで発生するか分かりません。常に「今、揺れたらどうする?」と考えてみるクセをつけておくことが重要です。また、地震が発生したとき、家族が一緒にいるとは限りません。子どもが一人でいても対処できるように、家族で話し合ってみてはいかがでしょうか。

市では、子ども向けの防災啓発動画「どうするタケシ! (地しん編)」などを公開しています。地震への備えに関する情報など詳しくは、市ホームページを確認してください。



急な停電時にも活動できるよう、種類の異なる複数のライトを自宅のさまざまな場所に置いています。

## 家庭でできる地震への備え

防災相談員が実際に行っている、家庭でできる地震への備えを聞いてみましょう。



危機管理課  
中田 健史 防災相談員

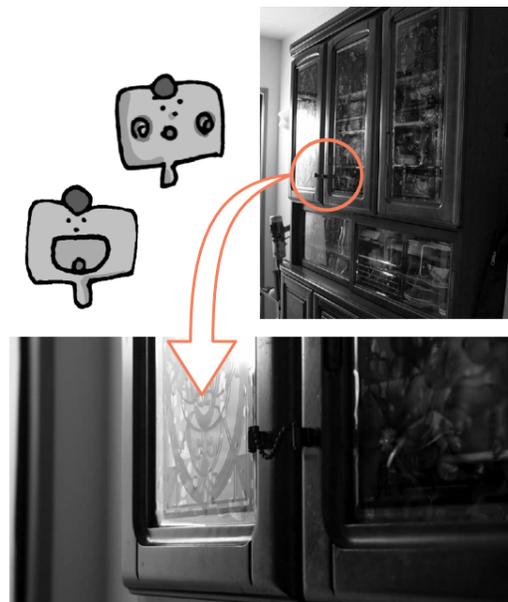
### 1 部屋別の地震対策を教えてください

#### ダイニングキッチン 物の落下・転倒を防ぐ対策を

- ・電化製品や大切なものの下には滑り止めのシートを敷いた上で、チェーンを張る対策をしています。
- ・冷蔵庫が倒れないよう、突っ張り棒でしっかり固定をしています。



大型の家具や電化製品は倒れると危険なため、重点的に対策。



・揺れで扉が開かないように取っ手をフックで固定し、ガラスが割れたときに飛散しないように、扉のガラス部分にはフィルムを貼っています。

#### 寝室 就寝中の安全を確保

- ・棚はチェーンで転倒を防止するとともに、棚がベッドに倒れてこない向きに設置しています。
- ・ライト・安全スリッパ・スマートフォンをバッグに入れ、就寝中は壁にかけています。そうすることで、就寝中に地震が発生したときでも、すぐに取り出し、部屋から出ることができます。



家族の安全確認もできます。

#### トイレ 閉じ込められたときのために

トイレ内に工具を常備しています。

